

# 日本のアメリカンフットボール

R07017 大島仁

指導教員 小山友介

## 1. 背景と目的

スポーツにおける関心は、野球やサッカーなど知名度の高いスポーツでは高まってきている。最近では「なでしこ Japan」の優勝などが挙げられる。その影でアメリカンフットボールは知名度も低く、細々と大会が行われている。芝浦工業大学のアメリカンフットボール部に所属していたことから、関心を持ったので現状や問題について調査し、考察をする。

## 2. アメリカンフットボール

### 2.1. アメリカンフットボールとは

アメリカンフットボールはラグビーと混同されがちである。主な違いとして、アメリカンフットボールは防具を着用しており、試合は基本的にセットプレイで進行する。ラグビーはヘッドギアを着用するが体には装着しない、プレイが基本的に止まらない、などがあげられる。試合の流れとして、ボールを相手陣内のエンドゾーンに向けて前進させ、得点数を競うスポーツである。主にボールを持って走る方法のランプレー、味方にパスを投げる方法のパスプレーがある。

### 2.2. 日本でのアメリカンフットボールの起源 [1]

誕生のきっかけは、1934年（昭和9年）当時の国際代替相場の円安を利用し日本で高等教育を履修しようとしていたハワイ出身の日系2世アメリカ人の存在だった。多数の留学生を受け入れた、関東の立教、明治、早稲田の各大学のアメリカ人担当教師が、彼らへの適切なる娯楽の提供としてアメリカ国技のアメリカンフットボールの導入を計った。

同年10月28日各大学関係者数十名が立教大に集會し、「米国アメリカンフットボールを日本に紹介し、米国ナショナル・学生・アスレチック・協会規定・フットボール・ルールに従い試合を行う目的」で東京学生アメリカンフットボール連盟を設立した。（現日本アメリカンフットボール協会）日本初の公式戦

は平日にも関わらず、1万5千人以上の観客を集めた。

### 2.3. 競技人口 [2]

表1を見ると日本アメリカンフットボール協会の登録者数は大学が全体の半分を占めているのがわかる。アメリカンフットボール部の存在する大学は218校。日本に存在する大学は1,151校、約20%しかアメリカンフットボール部は存在しない。混同されがちなラグビーと比較すると、ラグビー部が存在する大学は約30%である。

高校にいたっては、2%しか存在していない。ラグビーは25%となっている。野球やサッカーは約80%である。

表1 アメフトの競技人口と登録チーム数

	競技人口（人）	加盟チーム（チーム）
大学	9,745	218
高校	4,208	113
中学	844	24
小学	574	17
社会人	4,676	60

表2 ラグビーの競技人口

	競技人口（人）	加盟チーム（チーム）
大学	12,877	371
高校	33,942	1,225
中学	8,464	326
スクール	27,198	404
社会人	10,443	1,091

ここでアメリカンフットボールの総競技人口の半分を占める大学だけを見てみると、表3のようになる。北海道・関東・関西地方は約25%の大学にアメリカンフットボール部が存在している。しかし、残りの地方の大学では約10%しか存在していないことがわかる。日本の大学アメリカンフットボール界は、関東と関西で成り立っていることがこの表3からわかる。

表3 地域別大学アメフト競技人口と登録チーム数

	競技人口 (人)	加盟チーム数 (チーム)	大学数(校)
北海道	533	14	55
東北	341	10	79
関東	4,551	98	366
東海	687	17	135
関西	2,787	53	237
北陸	196	5	54
中四国	209	8	111
九州	541	13	114
合計	9,745	218	1,151

一方アメリカでは日本とは逆にアメリカンフットボールは国技と言われるほどの人気があり、ハイスクールレベルであっても、どの学校も必ずチームを持っていると言われている。競技人口は大学が73,000人、社会人(NFL)が15,000人、小中高で400万人以上と言われる。

### 3. アメリカンフットボール界の現状

#### 3.1. TV・WEB放送

地上波ではNHKが日本一を決定する「ライスボウル」を毎年放送している。しかし、残りはNFLの試合などしか放送していないのが現状。地方の放送局、CS放送などでは日本の試合も放送されている。有料チャンネルでしか日本の試合は見るできない。

WEB上では、大学1部の試合は関東・関西アメリカンフットボール連盟のオフィシャルホームページで閲覧可能。

Xリーグ(社会人)の試合もダイジェストだが、Xリーグオフィシャルホームページで閲覧可能。

日本でのNFLのTV放送は、NHK BS1がレギュラーシーズン原則週3試合、全米No.1を決める「スーパーボウル」を生中継で放送。GAORA(CS放送)がレギュラーシーズンを週2~6試合放送。日テレG+(CS放送)はレギュラーシーズンを週3~4試合、プレイオフはどの局も全試合放送している。

アメリカにおける「スーパーボウル」の人気は凄まじいもので、20年連続視聴率40%越えという記録を残している。一方日本における「ライスボウル」

はというと、視聴率は0.5%前後である。

#### 3.2. アメリカンフットボール界の問題

昨年、社会人リーグ1部で3位だった吹田マーヴェイズが、日本社会人アメリカンフットボール協会に加盟費を支払うことができず、自主的に2部に降格した。当時59人いた選手たちは降格が決まると他チームへ移籍してしまい、試合できる選手がいないという理由から、昨年7月31日に解散が決定した。

このように経営難からくる廃部や解散が過去にも数度あったというのが社会人アメリカンフットボール界で問題になっている。[3]

日本アメリカンフットボール界全体としての問題は、試合会場の少なさが問題に挙げられる。リーグトップのチーム試合が優先して割り振られていくため、下部になるほど会場の問題が深刻になる。関東のチーム同士の試合であっても、山梨や静岡まで遠征し、試合を行うこともあるのが現状である。

この問題に対して関西学生アメリカンフットボール連盟は何年ものあいだチケット代を貯めていき、2006年6月に日本初のアメリカンフットボール専用競技場である、エキスポフラッシュフィールドを大阪府吹田市の万博記念公園内に建設した。しかしそれでも会場不足であるのは変わらない。

#### 4. 考察

日本のアメリカンフットボール界がより盛り上がるためには、ファンの獲得が急務であると考えられる。ファンが増えることにより、チケット代から試合会場の建設、広告費などにあてることができるためである。ファンの獲得としては現在小中学校の新・学習指導要領に登場したフラッグフットボール等で低年齢層の確保が必要だと言える。

#### 5. 参考資料

[1] 日本アメリカンフットボール協会、限りなき前進—日本アメリカンフットボール五十年史(1984年)

[2] 社団法人日本アメリカンフットボール協会、加盟団体数登録人数 1983~2011

[3] Xリーグ2部降格の真相 35万人都市「吹田マーヴェイズ」の誤算/

[http://sankei.jp.msn.com/sports/news/110505/ot\\_h11050518010004-n1.htm](http://sankei.jp.msn.com/sports/news/110505/ot_h11050518010004-n1.htm)